

IAU報告

岡村定矩

日本天文学会代議員総会(2015/01/25)

I 第23期日本学術会議物理学委員会IAU分科会の発足

2014年10月に日本学術会議の第23期が発足し、2014年12月22日に開催された物理学委員会(分野別委員会)において、その傘下にあるIAU分科会が発足した。メンバーは以下の通り(物理学委員会と同じ)。

物理学委員会 IAU分科会		平成26年12月22日現在
氏名	所属・職名	備考
◎岡村定矩	法政大学工学部教授	連携会員
○永原裕子	東京大学大学院理学系研究科教授	連携会員
△山崎典子	宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所准教授	連携会員
△山田亨	東北大学大学院理学研究科教授	連携会員
須藤 靖	東京大学大学院理学系研究科教授	第三部会員
藤井良一	名古屋大学理事・副総長・名古屋大学太陽地球環境研究所教授	第三部会員
観山正見	広島大学学長室特任教授	第三部会員
生田ちさと	宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所准教授	連携会員
奥村幸子	日本女子大学理学部教授	連携会員
面高俊宏	鹿児島大学大学院理工学研究科教授	連携会員
海部宣男	自然科学研究機構国立天文台名誉教授	連携会員
梶田隆章	東京大学宇宙線研究所所長・教授	連携会員
國枝秀世	名古屋大学大学院理学研究担当副総長・教授	連携会員
小山勝二	京都大学名誉教授	連携会員
佐々木 晶	大阪大学大学院理学研究科教授	連携会員
佐藤勝彦	自然科学研究機構機構長	連携会員
芝井 広	大阪大学理学研究科教授	連携会員
杉山 直	名古屋大学大学院理学研究科教授	連携会員
常田佐久	宇宙航空研究開発機構理事・宇宙科学研究所長	連携会員
中川貴雄	宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所教授	連携会員
林 正彦	自然科学研究機構国立天文台台長	連携会員
森 正樹	立命館大学工学部教授	連携会員
村山 斉	東京大学国際高等研究所数物連携宇宙研究機構機構長・特任教授	連携会員
◎は委員長、○は副委員長、△は幹事		

注1 委員長、副委員長、幹事は12月22日、物理学委員会の終了後に開催された第1回のIAU分科会で選出された。

注2 第1回のIAU分科会では以下の4名をオブザーバーとすることを承認した。

- ・山岡 均 九州大学理学研究院(Division B commission #6 Astronomical Telegrams President)
- ・細川瑞彦 情報通信研究機構(Division A #31 Time President)
- ・大石正寿 国立天文台(IAUとITU(国際電気通信連合)とのリエゾン)
- ・山本 智 東大大学院理学系研究科教授(Commission Astrochemistry Vice President)

II 第23期日本学術会議物理学委員会IAU分科会第1回の開催

(1) 委員長、副委員長、幹事の選出

前ページの名簿に示すとおり選出された。来期(3年後)は新たな人が委員長となるよう適切な準備をすることが了解された。委員長より、この分科会メンバーは天文学・宇宙物理学分科会と同じメンバーで構成し、IAUのあるレベル以上の役職になっている人をオブザーバーとしていること、また、原則として、両分科会は同じ日に同じ場所で開催することを慣例としてきたことが報告され、今期もその原則を踏襲することとした。

(2) オブザーバーの選出

前ページの名簿に示すとおり選出された。来年夏にはIAU総会がホノルルで開かれ役員改選があるため、その後にオブザーバーを変更することになる。

(3) 22期からの引き継ぎ事項と23期の活動方針

机上配布資料(各種国際学術団体への加入分担金のグラフ)による説明(委員長+海部委員-IAU会長)

- ・日本学術会議がIAUに支払っている加入分担金は年間600万円以上で、個別国際学術団体への分担金の中では最も高額。
- ・IAUにおける日本のプレゼンスの継続的な発揮が課題である。
- ・IAU/IAU分科会活動についての認知度を高めることも課題である。
- ・日本天文学会との棲み分けの理解を共有する。

IAUの活動についての意見交換

- ・Office of Astronomy Outreach(OAO)を日本(NAOJ)に置いたことは重要な貢献である。同活動を継続することを23期活動方針にも加える。
- ・IAU組織改編が進められている。Commissionは永続的なものではなく、GA毎に見直すものとなっている。現在、設置するCommissionについて、Letter of Intentによる提案に対して会員の意向投票中であり、その結果をもとにホノルルの総会で新たなCommissionが提案され、決定される。
- ・その中で、日本人のプレゼンスをより発揮すべきである。IAUのSteering Committeeに日本人が入ってゆくべき。
- ・IAUシンポジウムの主催も少ない。
- ・サイエンスだけでなくIAUコミュニティ活動にも積極的に参加すべき

(4) 23期活動方針

- (1) IAU との関わりを深めて行くための諸活動を行う。
- (2) IAU の10 年戦略プロジェクト「発展のための天文学」に協力する。
- (3) 国立天文台に設置されているIAU のOffice for Astronomy Outreach (OAO) (head: Sze-leung Cheung, the International Outreach Coordinator) の活動に協力する。
- (4) 国内での天文学の教育・広報・普及活動を後援する。
- (5) IAU 総会の前に新会員を推薦する。

(5) IAU新会員推薦

IAU 新会員の推薦希望者に対して推薦の可否を議論した。

推薦について、以下を申し合わせた。

- ・学位取得後2年以上経過していない方(2012年以降学位取得)は原則として「すべて」推薦は見送る。論文博士でこれまでに継続的な天文学活動があった場合でも、これに当たる場合は見送ることとする。
 - ・要件を満たす外国人研究者は日本から推薦することの意志を確認してから推薦する。
 - ・天文学およびそれに関連する分野における活動をもとに推薦する。
- また以下の意見が出された。
- ・IAU参加費が国費から支出されていることを考えると、新会員の推薦についても明確な規範をもって慎重に考えるべきである。
 - ・審議の結果、今回申請があった73名について、11名の学位取得後2年未満の人は推薦を見送ることとした。それ以外の外国人であることがわかる人2名については、日本からの推薦で良いか確認の上、推薦することとした。また、入会希望があった1名を会員からの推薦によって追加で承認した。上記の外国人研究者2名を除いて、合計61名の推薦を決定した。

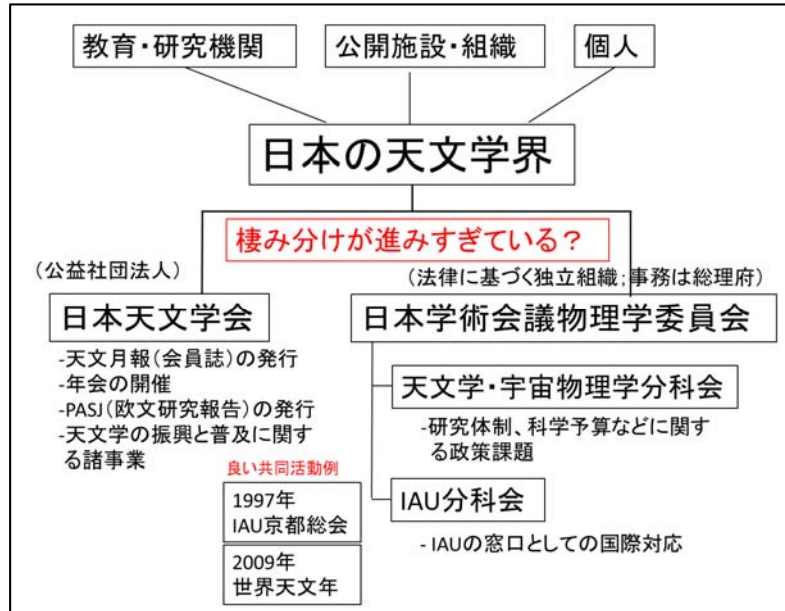
*その後、外国人2名は日本からの推薦を希望したため、推薦することとした。また、推薦を見送ることとした外国人1名は学位を2大学から取得しており、最初の学位取得から2年以上が経過しているとの申告があり、日本からの推薦を希望しているので、再度持ち回り審議を行い追加承認した。最終的に64名を推薦することとなった。

(6) その他

- ・来年のIAUホノルル総会への代表派遣の候補者を決定した。
- ・太陽系外惑星へ名前を付けるIAUのキャンペーンが進行中である。
<http://www.iau.org/news/pressreleases/detail/iau1501/>

Ⅲ IAUのコミュニティ活動への積極的参加に向けて

IAUホノルル総会(2015/8/3-14)に参加しましょう。(参考資料)



国内の各種のアウトリーチ・社会還元活動の後援

従来は、日本天文学会

今後は、

日本天文学会
日本学術会議国際天文学連合 (IAU) 分科会

となるものが増えるよう努力したい。

2013年9月の日本天文学会秋季年会では報告・依頼済み
 2013年10月4日のIAU分科会で議論

これまでにIAU分科会が後援した教育・普及活動

IAU分科会後援事業				
事業名称	開催時期	実施主体	連絡先	分科会承認
みたか太陽系ウォーク	2013/9/21-10/27	みたか太陽系ウォーク実行委員会、三鷹市、国立天文台、三鷹ネットワーク大学推進機構	唐崎 健嗣(三鷹ネットワーク大学推進機構)	事後承認
日本天文学会ジュニアセッション (年会時だけでなく活動全般)	2014/3/春季年会	日本天文学会	実行委員長 大西浩次(長野高専)	2014年1月6日
日本天文学会天文教育フォーラム 「社会は天文学になにを期待しているのか？」	2014/3/春季年会	日本天文学会(教育委員会) 天文教育普及研究会	高梨直紘(東京大学EMP) 安藤享平(郡山市ふれあい科学館)	2014年1月6日
日本天文学会公開講演会 「人は宇宙に何をみてきたのか」	2014/3/春季年会	日本天文学会	実行委員長(年会開催地理事) 石丸友里(国際基督教大学)	2014年1月6日
高校生天体観測ネットワーク 2014年全国フォーラム	2014/3/21	運営委員会	篠原秀雄(埼玉県立蕨高校) 塚田健(平塚市博物館)	2014年1月6日
銀河学校2014	2014/3/25-28	東京大学大学院理学系 研究科木曾観測所	東京大学木曾観測所 広報担当 三戸洋之	2014年3月3日
「ひので衛星といっしょに太陽を観測しよう2014」	2014/7/21-27	PAONETひのでデータ活用ワーキンググループ(PAOひのでWG)	矢治健太郎氏(国立天文台太陽観測所)	2014年4月3日
日本天文学会2014年秋季年会 天文教育フォーラム 「これからの学校教育における天文学」	2014/9/11 秋季年会	日本天文学会教育委員会、天文教育普及研究会	山岡均(日本天文学会教育担当理事)	2014年7月3日

Division運営組織への日本人の参加状況

Division Presidents & Vice Presidents (2012-2015)

Division A: Fundamental Astronomy

P: Sergei Klioner (Germany)
VP: Jacques Laskar (France)

Division B: Facilities, Technologies and Data Science

P: David Silva (USA)
VP: Pietro Ubertini (Italy)

Division C: Education, Outreach and Heritage

P: Mary Kay Hemenway (USA)
VP: Hakim Malasan (Indonesia)

Division D: High Energy Phenomena and Fundamental Physics

P: Diana Worrall (UK)
VP: Felix Aharonian (Ireland/Germany)

日本人President/Vice Presidentsなし。

Division E: Sun and Heliosphere

P: Lidia van Driel (UK)
VP: Yuhua Yan (China)

Division F: Planetary Systems and Bioastronomy

P: Giovanni Valsecchi (Italy)
VP: Nader Haghighipour (USA)

Division G: Stars and Stellar Physics

P: Ignasi Ribas (Spain)
VP: Corinne Charbonnel (France)

Division H: Interstellar Matter and Local Universe

P: Ewine van Dishoek (Netherlands)
VP: Joss Bland-Hawthorn (Australia)

Division J: Galaxies and Cosmology

P: Françoise Combes (France)
VP: Thanu Padmanabhan (India)

Division Steering Committee (2012-2015)

Division A: Fundamental Astronomy

細川瑞彦 C31 President (12名)

Division B: Facilities, Technologies and Data Science

山岡 均 C6 President (13名)

Division C: Education, Outreach and Heritage

関口和寛 (8名)

Division D: High Energy Phenomena and Fundamental Physics

高橋忠幸 (6名)

日本人のCommission Presidents
は2名のみ。

Division E: Sun and Heliosphere

なし (9名)

Division F: Planetary Systems and Bioastronomy

なし (12名)

Division G: Stars and Stellar Physics

なし (12名)

Division H: Interstellar Matter and Local Universe

なし (9名)

Division J: Galaxies and Cosmology

なし (9名)

第XXIX回IAU総会(ホノルル 3-14 Aug., 2015)

- ・すべてのCommissionsが新生スタート
- ・Steering Committeeの選出(電子投票)
- ・多くの会員が投票に参加して欲しい

参考資料

天文月報特集: IAUとの関わりを考える

第1回 会員数第3位の大国に(2010/11)

第2回 IAUの10年戦略「発展途上国に天文学を」(2010/12)

第3回 2009リオデジャネイロ総会の報告(1011/1)

歴代の主な日本人役員

1961年の会員は僅か36名、現在~660名

会長	海部宣男 (2012-15) 古在由秀 (1988-91)	福島登志夫(C 4, 2006-09) 奥田治之 (C44, 2003-06) 岡村定矩 (C28, 2000-03)
会長予定者*	海部宣男 (2009-12) (*1992~)	福島登志夫(C31, 1997-00)
副会長	海部宣男 (1997-2000; 00-03) 萩原雄祐 (1961-64; 64-67) 平山 信 (1922-25; 25-28)	磯部琇三 (C50, 1994-97) 木下 宙 (C 4, 1994-97) 森本雅樹 (C40, 1991-94)
財務委員	福島登志夫 (2006-09) 福島登志夫 (委員長, 2000-03; 03-06) 池内 了 (1997-2000)	近藤陽次* (C42, 1991-94) 宮本昌典 (C 8, 1988-91) 佐藤勝彦 (C47, 1988-91)
特別指名委員	海部宣男 (委員長, 2012-15) 岡村定矩 (2006-09) 杉本大一郎 (1997-00) 古在由秀 (委員長, 1988-91) 小平桂一 (1985-88) 宮地政司 (1961-64)	古在由秀 (C20, 1985-88) 杉本大一郎(C35, 1985-88) 小平桂一 (C36, 1985-88) 近藤陽次* (C44, 1985-88) 寿岳 潤 (C29, 1982-85) 小田 稔 (C44, 1982-85)
部会長	岡村定矩 (VIII, 2006-09) 福島登志夫 (I, 2003-06) 奥田治之 (XI, 2003-06)	進士 晃 (C 4, 1979-82) 古在由秀 (C 7, 1979-82) 内田 豊 (C12, 1979-82)
委員長	山岡 均 (C6, 2012-2015) 細川瑞彦 (C31, 2012-2015) 大石雅寿 (C5, 2009-12) 吉川 真 (C20, 2009-12) 渡部潤一 (C22, 2009-12)	田鍋浩義 (C21, 1979-82) 飯島重孝 (C31, 1979-82) 須川 力 (C19, 1973-76) 藤田良雄 (C29, 1970-73) 古畑正秋 (C21, 1967-70) 萩原雄祐 (C 7, 1964-67)

第XXIX回IAU総会(ホノルル 3-14 Aug., 2015)

<http://astronomy2015.org/>

Symposia

- IAUS 314 – Young Stars & Planets Near the Sun (outside the General Assembly)
- IAUS 315 – From Interstellar Clouds to Star-forming Galaxies: Universal Processes?
- IAUS 316 – Formation, Evolution, and Survival of Massive Star Clusters
- IAUS 317 – The General Assembly of Galactic Halos: Structure, Origin and Evolution
- IAUS 318 – Asteroids: New Observations, New Models
- IAUS 319 – Galaxies at High Redshift and Their Evolution Over Cosmic Time
- IAUS 320 – Solar and Stellar Flares and Their Effects on Planets

Focus Meetings

← 従来のJoint DiscussionとSpecial Sessionを一緒にした

- FM 1 – Dynamical Problems in Extrasolar Planets Science
- FM 2 – Astronomical Heritage: Progressing the UNESCO–IAU Initiative
- FM 3 – Scholarly Publication in Astronomy: Evolution or Revolution?
- FM 4 – Planetary Nebulae as Probes of Galactic Structure and Evolution
- FM 5 – The Legacy of Planck
- FM 6 – X-ray Surveys of the Hot and Energetic Cosmos
- FM 7 – Stellar Physics in Galaxies Throughout the Universe

Focus Meetings

FM 8 – Statistics and Exoplanets

FM 9 – Highlights in the Exploration of Small Worlds

FM 10 – Stellar Explosions in an Ever-changing Environment

FM 11 – Global Coordination of Ground and Space Astrophysics and Heliophysics

FM 12 – Bridging Laboratory Astrophysics and Astronomy

FM 13 – Brightness Variations of the Sun and Sun-like Stars

FM 14 – The Gravitational Wave Symphony of Structure Formation

FM 15 – Search for Water and Life's Building Blocks in the Universe

FM 16 – Stellar Behemoths - Red Supergiants Across the Local Universe

FM 17 – Advances in Stellar Physics from Asteroseismology

FM 18 – Scale-free Processes in the Universe

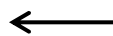
FM 19 – Communicating Astronomy with the Public in the Big Data Era

FM 20 – Astronomy for Development

FM 21 – Mitigating Threats of Light Pollution & Radio Frequency Interference

FM 22 – The Frontier Fields: Transforming our Understanding of Cluster and
Galaxy Evolution

Division Meetings



2-3 days: science-based+short
business meeting